【選択】教員力の資質向上のための講習

■期日　令和３年８月 18 日(水)～8 月 20 日(金)
■主な対象　幼稚園、小学校、中学校・高等学校保健体育教諭
■定員　115 名
■会場　たまプラーザキャンパス
■応募期間(仮申込)　　令和３年４月 16 日(金)10：00～4 月 20 日(火)23：59
■受講料　2 万円
■時間数　18 時間　【選択領域】受講者が任意に選択して受講する領域
■講習内容
本講座では、本講座では、(1) グローバル化社会で逞しく生きる力を子どもたちに育むための教師力向上を目指す。(2) 運動をはじめ様々な体験不足の現代の子どもたちを元気にするための教員の資質向上を目指す。(3) 現代社会に育つ子どもたちの成長を助け、支援するための知識と技術力を養うことを目標としている。講師は当該内容を専門領域とする本学教員が担当する。講習は 3 日間で 18 コマを開講。受講者は各自のニーズに応じ、6 コマ 18 時間を選択し、教員力の資質向上を図る。
■時間割

	日時	時間割番号	時間割番号	時間割番号
選択科目時間割	18日午前	E-1-1	E-1-2	E-1-3
	18日午後	E-2-1	E-2-2	E-2-3
	19日午前	E-3-1	E-3-2	E-3-3
	19日午後	E-4-1	E-4-2	E-4-3
	20日午前	E-5-1	E-5-2	E-5-3
	20日午後	E-6-1	E-6-2	E-6-3

仮申込時に「授業コマごとの登録」が必要です。但し、各コマの希望人数により、希望以外のコマを受講いただく場合がありますので、予めご了承ください。
授業コマは、3 日間午前午後に各 1 コマを登録してください。
■担当講師
夏秋　英房　　國學院大學人間開発学部教授　　《E-1-1》
千野　謙太郎　國學院大學人間開発学部准教授　《E-1-2》
田沼　茂紀　　國學院大學人間開発学部教授　　《E-1-3》
吉永　安里　　國學院大學人間開発学部准教授　《E-2-1》
備前　嘉文　　國學院大學人間開発学部准教授　《E-2-2》
高橋　幸子　　國學院大學人間開発学部教授　　《E-2-3》
青木　康太朗　國學院大學人間開発学部准教授　《E-3-1》
藤田　大誠　　國學院大學人間開発学部教授　　《E-3-2》
寺本　貴啓　　國學院大學人間開発学部教授　　《E-3-3》
山瀬　範子　　國學院大學人間開発学部准教授　《E-4-1》
大矢　隆二　　國學院大學人間開発学部教授　　《E-4-2》
長田　恵理　　國學院大學人間開発学部准教授　《E-4-3》
島田　由紀子　國學院大學人間開発学部教授　　《E-5-1》
小林　唯　　國學院大學人間開発学部助教　　《E-5-2》
成田　信子　　國學院大學人間開発学部教授　　《E-5-3》

野本　茂夫　　國學院大學人間開発学部教授　　《E-6-1》
川田　祐樹　　國學院大學人間開発学部准教授　《E-6-2》
柴田　保之　　國學院大學人間開発学部教授　　《E-6-3》

■シラバス

E-1-1

講義名	地域社会と共につくる学校・園の教育・保育とは
担当講師	夏秋　英房
講義概要	地域のコミュニティと園や学校の教育は、新しい学習指導要領が「社会に開かれた教育課程」を標榜していることからもわかるとおり、連携して子どもを育てていく共通の課題を担っているものとされる。 しかしながら、園や学校は具体的にどのように地域と連携することができるのか。さらに言えば、連携すべき相手となる「地域」は果たして存在するのか。教育・保育の専門家集団が運営している園や学校はいまや「働き方改革」の的になるほどに多忙を極めている。それが、不確かな「地域社会」と連携してゆくことに、どのような意味があるのか、などなど、疑問は後を絶たないほど出てくるだろう。 園や学校と地域社会とのつながりは、それぞれの学校や地域の特性によって異なっている。したがって、そこで働く先生方も、地域社会と結びついた経験の豊かな先生もいれば、ほとんど経験のない先生もおられるだろう。さまざまな特性をもった地域があり、いろいろな考えや生活背景を持った保護者や地域住民が住んでいる。また、さまざまな経験と考えをもった教師・保育者たちがいる。このことを前提にしながら、地域社会と園や学校との関わりのあり方について、とくに子どものたちの生活と育ちをともに支えていくあり方について、ビジョンを示し事例をもとに考えてみたい。 本講習でイメージする地域は、たまプラーザ・キャンパス周辺のような大都市郊外が中心になるおおむね次のような構成で講義と討議を織り交ぜながら進めていきたい。 1）地域社会と園・学校の関わりの変化とこれからのビジョン 2）子どもの安心と安全をたもつ学校と地域社会 3）子どもの生活経験を豊かにする学校と地域社会 4）子どもの学びを支え導く学校と地域社会 5)「地域に開かれた学校」は「地域と共に教育を創り、学ぶ学校」になり得るのか　※資料などは当日配布する〔参考〕玉井・夏秋著『地域コミュニティと教育』(放送大学、2018 年)。OECD 編著『保育の質向上白書』、文部科学省「OECD Edcucation2030 プロジェクトについて」

評価方法	1）講義のテーマにかかわる基礎的な知識を習得し、課題を理解できたか 2）講義のテーマについて、ご自分の教育・保育の現場に照らして、もしくは身近な経験や地域特性に照らして考えることができたか。自分なりの意見や見解をもつことができたか。 以上の 2 点について、授業内試験によって評価します。

E-1-2

講義名	青少年期の成長発育と運動
担当講師	千野　謙太郎
講義概要	青少年期は第二次性徴が出現し、急激な成長、発育を示す時期である。したがって、青少年に安全で効果的な運動を行わせるためには、青少年期の成長、発育の特徴を理解することが重要である。また、そのような特徴が運動による適応にどのような影響を及ぼすかを理解することも重要である。そこで、本講義では現代社会に育つ子どもたちの成長を助け、支援する際に役立てるため、青少年期の成長発育と運動に関する知識について概説する。
評価方法	講義の概要をまとめ、考察する記述式試験を実施する。

E-1-3

講義名	道徳教育の理論と実践：「特別の教科　道徳」の意義理解と具体的実践
担当講師	田沼　茂紀
講義概要	本講習では平成 31 年 4 月より義務教育学校全てで全面実施された小・中学校「特別の教科　道徳」＝道徳科の全貌について概観し、その充実実施に向けた諸課題への理解を深めながら、実践的な視点からどう道徳科授業づくりに取り組めばよいのかを演習的に考察していく。 ①道徳教育を巡る諸課題について（現代の子供たち、道徳教育忌避感情、道徳教育軽視傾向） ②学校における道徳科の役割（道徳の意義と目的、道徳の内容、道徳の指導方法） ③道徳科の特質を生かした授業づくりの方法（指導計画、主題構成、教材、指導方法、評価、カリキュラム・マネジメントの　進め方） また、近年の学校現場で注目されているアクティブ・ラーニングによる道徳科授業づくりのポイントについても言及していく。その際、具体的に道徳科授業がイメージできるよう、ワークショップ形式で展開していく予定である。
評価方法	本講義の評価については、①受講者が学びを通してどのような道徳科への自己課題を発見することができたか、②今後の道徳科授業実践に向けてどのような知見を得ることができたのか、この 2 点を論述試験として実施する。なお、論述試験は本講義の最後に時間を設定して行う。

E-2-1

講義名	幼児と楽しむことば遊び～幼小のつながりを考えて～
担当講師	吉永　安里

講義概要	平成 29 年度改訂の幼児教育の 3 法令では小学校への接続が一層強調され、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についての記述が盛り込まれた。しかし、幼児教育と小学校教育には、カリキュラムの構成原理や指導方法に違いがあり、子どもたちがその段差につまずくことも少なくない。幼児教育と小学校教育を円滑につなぐには、カリキュラムに連続性をもたせることが重要である。この連続性を保証するには、どちらかに合わせるのではなく、幼小が互いの教育のよさを理解し、幼児期の育ちを小学校の指導に生かしていく、連続的な学びを意識する必要がある。 　本講座では、令和 2 年度に全面実施となる新小学校学習指導要領に基づくスタートカリキュラムの考え方について、実践記録を通して理解を深めるとともに、小学校の単なる準備としての幼児期の指導ではなく、幼児期の特性を生かしたことばの学びの芽生えをどのように充実させるかを検討したい。
評価基準	講義で学んだことを生かした、幼児期後半、あるいは小学校のスタートカリキュラムにおける言葉の学びに関する指導案とレポート作成により評価を行う。

E-2-2

講義名	運動部活動のあり方 ～学校と地域スポーツクラブの連携について～
担当講師	備前　嘉文
講義概要	近年、学校の部活動を巡っては、教員の負担増や体罰問題など多くの問題が生じている。そのような問題を解決するために、外部指導者の導入や休養日の設定、地域スポーツクラブとの連携が検討されている。本講義では、下記の内容にもとづき学校部活動と地域スポーツクラブの連携について検討を行う。 1. 日本の体育・スポーツ界を取り巻く環境 　(1) 学校と企業によるスポーツ振興 　(2) 1990 年代後半から今日にかけての変化 　(3) 地域スポーツクラブによるスポーツ振興 2. 学校と地域スポーツクラブの連携 　(1) 体育とスポーツ 　(2) 部活動が果たす役割 　(3) 地域スポーツクラブが果たす役割 　　1) 地域スポーツクラブが抱える問題 　　2) 教員の地域スポーツクラブに対する意識 　　3) 学校と地域スポーツクラブの望ましい連携とは 3. 体育・スポーツのあるべき姿とは
評価方法	講義内容に基づいた筆記および口述試験を実施し、理解度を測定し評価を行う。

E-2-3

講義名	子どもの思いによりそう特別支援教育～最適な支援のためにできること～
担当講師	高橋　幸子
講義概要	我が国においても、2014 年国連の「障害者権利条約」を批准し、教育現場においては共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の実現がめざされ、特別支援教育の充実がさらに求められています。 　障害のあるなしに関わらず、個別の教育的ニーズを有するすべての幼児児童生徒に対し最適な支援を行うために、私たち教員が大切にしなければならないことは何か、「連続性のある多様な学びの場」の実現のために必要なことは何か、本講習を通して一緒に考えてみませんか。 具体的には下記の内容を予定しています。 〇発達障害の理解と支援―最新の知見から 〇新学習指導要領から考える今後の特別支援教育 〇合理的配慮の観点から検討する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」 〇インクルーシブな授業づくりのための視点と工夫 〇教育実践上の現状と課題についての意見交換（ケース検討含む） 受講者の人数や属性に応じて、講義だけでなく疑似体験、グループワークなどを行う予定です。個人情報に配慮して具体的な事例についての検討や情報交換なども行いたいと思います。
評価方法	講義内容を理解して、特別支援教育の課題と今後の展望について、自らの教育実践と関連させて整理・検討できたか、論じていただきます。

E-3-1

講義名	子どもの豊かな感性を育む自然体験
担当講師	青木　康太朗
講義概要	幼少期の豊かな体験は、子どもの健やかな成長を支える大切な糧になります。特に、幼児期に行われる多様な体験は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、その後の成長・発達だけでなく、ひいてはその後の人生にも大きく関わると考えられています。幼児が調和のとれた発達をしていくためには、発達の様々な側面に関連する多様な体験をすることが重要ですが、とりわけ自然体験や外遊びといった経験は、幼児の成長過程において欠くことのできないものだといえます。 平成 29 年 3 月に公示された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶこと（領域「健康」）や自然との関わりを深めること（領域「環境」）が求められており、園生活における自然体験や外遊びの必要性が示されています。 そこで、本講義では、幼少期における自然体験や外遊びの教育効果を解説しながら、幼稚園や保育所、認定こども園における自然体験や外遊びの意義や支援の在り方について考えてみたいと思います。
評価基準	講義内容を基に筆記試験を行います。

E-3-2

講義名	歴史から見た「文化としてのスポーツ」
担当講師	藤田　大誠
講義概要	「スポーツ基本法」(平成 23 年制定)の前文冒頭には、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」と明記され、「スポーツ立国の実現」が目指されている。また現在、中・高の保健体育科においても、単なるスポーツ実技の指導のみならず、「体育理論」の中で「文化としてのスポーツの意義について理解すること」（中学校学習指導要領）、「スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解すること」（高等学校学習指導要領）が求められている。　そこで本講義では、体育・スポーツ史やスポーツ人類学の観点から、近現代日本における「文化としてのスポーツ」（スポーツ文化）の歴史を概観し、特に日本の「スポーツ文化」の大きな特徴である「神前（祭典）スポーツ」（奉納競技）の近代的展開とオリンピックとの関わりに着目することによって、日本人がスポーツ文化と如何に関わってきたのかを問い直すこととしたい。
評価基準	講義内容に基づく論述式筆記試験を行い、その理解度を評価する。

E-3-3

講義名	新学習指導要領の趣旨を意識した新しい理科授業の考え方
担当講師	寺本　貴啓
講義概要	新学習指導要領は、「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」など、たくさんの新しい言葉が使われています。では、これからの理科は、これまでとどう違い、どのように変わるのか概説します。また、全国学力・学習状況調査においても、理科で求められる課題がいくつか明らかになっています。そこで、これからの授業で教師が何に留意して指導して行く必要があるのかについても解説し、体験も含め理解を深めていきます。 １．「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」と理科 ２．新学習指導要領の理科 ３．現在の理科の課題の具体 ４．実習
評価基準	

E-4-1

講義名	学校と家庭のパートナーシップの中で子どもを育む～家庭環境の変化を踏まえて～
担当講師	山瀬　範子
講義概要	本講義では、家族像の変化と現代家族の問題と課題について概説した上で、社会との連携及び協働を通して子どもたちを育むために、教師・保育者と保護者の関わりや子育て家庭への支援の在り方について考えることを目的とする。 「子どもが育てにくい社会になった」「家族が変わった」「家族が子どもを育てることができなくなっている」等、家庭の養育力の低下について論じられるようになって久しい。「変わった」といわれる家族の姿が、そもそも、どんな形として捉えられてきたのか、「低下」したといわれる「養育力」の中身は何を指しているのか、議論の基礎となる家族の姿、養育力について、まずは、概説し、その上で、現代家族の持つ問題点や課題となることを整理する。 これらの議論に基づいて、教師・保育者と保護者の関わりや子育て家庭への支援について考えていきたい。
評価基準	講義の終わりに、講義内容にもとづく筆記試験（論述式）を行います。

E-4-2

講義名	生徒の学びに向かう力を育てる体育科教育
担当講師	大矢 隆二
講義概要	本講習は，講義および演習形式で展開していきます。 講義では，生徒の学びに向かう力を育てるために，基礎的な体育科教育学的な知見（運動の動機づけ，運動神経の科学，主運動前の運動例など）と最新の教育理論の話題を交えて講義します。また，中学校および高等学校学習指導要領の全面実施に向けて，主体的・対話的で深い学びを実現する保健体育の見方・考え方を概説します。 演習では，教育現場の実践例を話し合ったり，さまざまな学習理論を踏まえたりしながら，具体的な授業場面を想定した単元構造図を作成・共有する予定です。
評価基準	講義内容の確認として筆記テストを実施します。

E-4-3

講義名	小学校英語で身につける、思考力・判断力・表現力とは
担当講師	長田　恵理
講義概要	まず、３，４年生への配付教材『Let’s Try !』、５，６年生の教科書を用いて、「聞く」「話す（発表）」「話す（やりとり）」「読む」「書く」の５領域（３，４年生は３領域）がそれぞれ単元内でどのように位置づけられているかを確認する。次に、主に外国語科において、児童の思考力・判断力・表現力を育てるための言語活動や指導方法、及び評価の方法について検討する。本講習は、児童役になったり、グループ内で先生役になったりの演習を含む。
評価基準	筆記試験の成績(50%)と講座での積極的な参画(50%)を総合的に判断して評価する。

E-5-1

講義名	子どもの創造性を育む表現活動
担当講師	島田　由紀子
講義概要	幼稚園教育は遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して行われるもので、小学校以降の学びや思考に深く関わると考えられる。小学校以降の教育においても、さまざまな素材と向き合い試行錯誤することで、自分なりの表現を獲得し、友達に伝えたり、感じとったりすることで、創造的な表現に結びつけることができる。この授業では、造形的な表現や学びの視点から、子ども一人一人の「やりたい」意欲を尊重し、創造的で主体的な表現活動や学びについて考える。また、保育者、教師自身の感性を磨き合い、子どもの創造性を育む援助や総合的な指導について検討する。
評価方法	評価は筆記試験で行う。※持ち物は、はさみ、筆記用具、マジック（8 色程度のセット）、セロテープ、糊、など。動きやすい汚れてもよい服装で参加してください。

E-5-2

講義名	成長期の子どもの食問題と食育
担当講師	小林　唯
講義概要	平成 17 年に「食育基本法」が施行され、国を挙げて食育に取り組む時代となり、未来を担う子どもたちへの食育は特に重要視されています。また、子どもたちの抱える食の問題の背景には、保護者や生活習慣、地域環境が大きく影響してると言われており、食の中心は家庭です。そのため、教員が子どもたちの食の問題について正しく理解し、保護者と連携して食育を進めることが、子どもたちの食環境を改善するために重要だと考えます。 本講義では、以下の 2 つの内容を解説します。 Ⅰ. 子どもの食環境とその問題 Ⅱ. 学校現場での食育活動 子どもの食環境とその問題では、子どもの食環境をめぐる問題を取り上げ、その背景とどのように改善するべきか解説します。学校現場での食育活動では、保健体育科の授業や部活動、保健指導といった活動の中でどんな食育ができるのか、事例を挙げて解説をします。
評価基準	講義に基づく筆記試験によって、理解度を評価します。

E-5-3

講義名	子どもたちの学びを引き出す国語科授業づくり
担当講師	成田　信子
講義概要	令和 2 年度から全面実施された新学習指導要領では、資質・能力の育成が今までにも増して重要視されています。国語科においては、従来の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域は、資質・能力の「思考力・判断力・表現力」に位置付けられることになりました。授業づくりでは、国語科の指導事項と資質・能力の関係をどのようにとらえて

	立案をすればよいのでしょうか。教師が子どもたちの学びをみてとり、大きな枠組みのなかでとらえることが求められます。 　本講義では、文学的な文章を教材として、子どもの学びを中心においた立案を考えます。子どもの学びとは、子どもの現状、子どもに付けたい力、学びに向かう姿勢などを包含しています。これら子どもの学びと教材をつないで教材研究をし、授業のねらいや流れ、主発問、言語活動を導いていきましょう。講義のなかにグループワークを取り入れ、相互交流的な学びの手法によって授業づくりを行います。学級や学校の子どもたちの具体的な姿を互いに交流し、教師の教授行動の意味を問いながら、子どもたちの意欲を引き出し明日を切り開く授業を考えていきましょう。
評価基準	１講義内容についての振り返りテスト ２グループワークの参加・学びの記述

E-6-1

講義名	対話を通して深める保育臨床相談
担当講師	野本　茂夫
講義概要	幼稚園、認定こども園では、子どもと保護者、そして保育者を巡る問題や課題が多様化、複雑化、深刻化してきています。そして、保育者はこの問題や課題に取り組んでいくことが使命です。ところが、保育者一人の力で奮闘努力するだけではなかなか対応策が見つからない問題や課題に数多く出会います。また、問題の大きさに直面し、保育者として無力感に陥ってしまうこともしばしばです。そこで、このような保育現場の臨床的な問題や課題の解決を目指して、保育者や関係者が対話し相談し、子ども理解や保護者理解を深化させ保育で協働しながら、創造的に保育の問題や課題に取り組み改善していく保育のあり方を考えていきます。そして、講義の後半では、可能であれば実際に対話の時間を設けて保育を深める体験をしてもらう計画です。
評価基準	以下のように評価基準を定め、１００点満点で評価し、６０点以上を合格とする。 ・ 試験　７０点 ・ 受講と対話への参加度　３０点

E-6-2

講義名	子どもの肥満・痩せと生活習慣
担当講師	川田　裕樹
講義概要	「三つ子の魂百まで」という諺があるように、子どもの頃に身についた生活習慣を改善することは容易ではなく、一度身についた食習慣や運動習慣はその後の生活習慣や体格にも大きく影響していることが考えられます。少子高齢化やそれにともなう国民医療費の増大が大きな社会問題になっている我が国において、生活習慣病を未然に防ぐための方策は極めて重要であり、生涯にわたる健康保持のためには、特に幼少期の段階で望ましい生活習慣を身に身に付けさせることが大切だと言えるでしょう。 　しかしながら、子どもは大人と異なり、将来の健康を見据え行動をとることが難しいこと、また、子どもは大部分の生活習慣について保護者の影響下にあることから、子どもに望

	ましい生活習慣を身に付けさせるためには、子ども自身がその必要性を実感できるような教育や、保護者をも含めた教育的なアプローチが必要です。 　本講義では、子どもを取り巻く生活習慣の現状や、小児の肥満・メタボ、若年女性の痩せなどの問題について解説するとともに、学校現場で教師ががこれらに対してどのように貢献できるかを考えます。
評価基準	講義の内容に基づく筆記試験により、その理解度を評価します。

E-6-3

講義名	障害の意味を問い直す―障害の重い子どもとの関わり合いを通して―
担当講師	柴田　保之
講義概要	特別支援教育が始まって 15 年目を迎え、インクルーシブ教育という言葉もさかんに使われるようになってきました。しかし、現実は必ずしもそういう理想に向かってまっすぐ進んでいるわけではなく、そもそも、障害とは何なのか、障害というのはどういう意味を持つのかという根本的な問いへの答えが明らかになっているわけではありません。この講義では、特に、これまでの知的な障害に関する常識とは異なった事実、すなわち見かけの障害とは異なって一人一人の内面には豊かな言葉の世界が存在するということについて、私自身の具体的な関わり合いを中心に紹介し、そうした問いへの手がかりを見出していきたいと思います。
評価基準	講義の最後の、講義内容に関する小レポートよって評価を行う。